

福知山市議会「議会運営委員会」
行政視察研修報告書

- 1 視察日程 令和4年7月5日(火) 午後2時から

- 2 視察先及び調査項目
京都府舞鶴市
「舞鶴市議会議場システムの視察について」

- 3 参加委員
議会運営委員会
委員長 田渕裕二、副委員長 馬谷明美
委員 藤本喜章、野田勝康、足立伸一、塩見卯太郎
吉見純男、小松僚太、田中法男、荒川浩司
議長 高橋正樹 副議長 吉見茂久 (12名)

- 4 視察経費 総額 15,248円 (1人あたり1,271円)

- 5 調査報告
別紙のとおり

視 察 日	令和 4 年 7 月 5 日 (火) 午後 2 時より 3 時 3 0 分頃まで
視 察 先	京都府舞鶴市 (議会議場) 人口 78,428 人 (令和 4 年 4 月 1 日現在) 市面積 342.12 km ² 議員定数 25 人 (令和 4 年 1 月 2 0 日執行の一般選挙から適用)
調査項目 施策・取組等	議場システム更新(マイク・カメラ・モニタースクリーン・音響・オペレーション・Wi-Fi)機材等による新しい議場設備の効果と、電子採決の運用方法における個別採決と一括採決の仕組み等についての調査。
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	電子採決について他市議会の実施事例等を調査する中で、議案ごとの個別採決を電子採決に適用する事例においては、採決に比較的時間を要する傾向があることから、電子採決については単体で検討するのではなく、一括採決についても検討を広げて、電子採決のあり方そのものについて検討を行う必要があることを認識したことから、令和 3 年度に議場設備等の全面更新を行い、電子採決や一括採決の手法を適用されている舞鶴市議会に伺い、電子採決による一括採決等による実際の議事進行はどのように行われているのか、電子採決の仕組と手法等について調査することとなった。 併せて、新しく更新された議場内設備の傍聴者用ディスプレイモニターや議場内スピーカーの視認性や音響効果等についての調査も実施した。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度に更新された、新しい議場システムの概要について ・議場システムの更新事業費等について ・議場システム(マイク・カメラ・モニター等)の運用について ・電子採決による一括採決の仕組みと手法について ・電子採決で一括採決・個別採決の適用区分と調整仕分けについて ・一括採決を行うための留意点について ・電子採決システムによる採決・一括採決の模擬体験の実施について ・傍聴者にも採決議案が解りやすい議場システムについて
考察・効果	<p>* 視察当日(午前)、議会運営委員会で福知山市議会議場で、サイドブックスのオプション機能を試用して、福知山市議会令和 3 年 1 2 月定例会における採決場面を電子採決に適用して模擬採決の体験を行った。 電子採決は議長の裁決確認のための文言は多くなり、採決所要時間が現在の起立採決と比較すると、約 2 倍の所要時間を要する結果となった。</p> <p>* 午後、電子採決の模擬体験を踏まえて舞鶴市議会の議場視察を行った。</p> <p>* 舞鶴市議会本会議場(午後)において、舞鶴市議会「山本治兵衛」議長より資料に基づき説明を受けた。 「議場システム整備事業の目的」について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器類の更新による議場全般のクオリティが向上した。 ・スピーカーの複数配置による「聞き取りやすさ」が向上した。 ・発言者と資料の同時表示による「分りやすさ」が向上した。 ・将来の機能向上に備えた拡張性の確保ができた。 ・操作性の向上(1 人での操作も可能)が実現した。

1. 令和3年度に更新された、新しい議場システムの概要について

舞鶴市議会議場システム整備事業は、事業費3,850万円の全額を国の新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を充当して議場システム整備事業を令和3年2月から令和3年10月の期間で議場内のマイク・カメラ・スピーカー・モニター・制御機器などを一新する改修工事が実施された。

2. 議場システム(マイク・カメラ・モニター等)の運用について

- ・議場システムの運用は、壇上発言の場合には発言者映像と議場全景を繰り返し発言音声と共に映像配信を実施している。
- ・壇上発言者の映像テロップは「会派名と氏名」又は「委員会名と氏名」を映像にインサートしている。
- ・議場内モニターには、発言者のリアルタイムの配信映像と発言の残り時間等が表示されている。
- ・議場配信等の操作(マイク・カメラ・テロップ等)事務局員1名で操作している。マイク・カメラについては連動しておりタッチパネルで簡易に操作が出来るようになった。

3. 舞鶴市議会の採決の考え方について

- ・舞鶴市議会では先例として、採決は原則として一括採決とするが、分離採決を必要とする案件は、分離して採決することが例である。
(昭和55年6月定例会)
- ・個別採決が行われる案件 (事前の申し合わせ等はない)
人事案件(教育委員会委員の任命や人権擁護委員候補者の推薦等)
意見書など

4. 一括採決の留意点と懸念事項について

- ・一括採決の懸念事項は、傍聴者にとって詳細な議案採決内容が分りにくいと考えられる。一括採決では議案採決にあたって賛成・反対討論の意義と整合性等が分りにくく、傍聴者が一括議案の採決を判断する論点が分りにくいことが懸念事項と考えられる。採決にあたっては議案の明確化を進め、議場モニターに採決議案を表示した。

***舞鶴市議会では、一括採決が「最適解」という訳ではないが、総合的な考え方に視点を置いて判断し、一括採決を実施している。**

5. 電子採決システムによる採決・一括採決の模擬体験の実施について

- ・舞鶴市議会 山本議長の進行により、福知山市議会議員は各議席に着席を行い、電子採決による模擬採決の体験を行った。

・模擬体験採決進行内容

- 議長より、これより第〇号議案を採決いたします。
採決は、押しボタン式投票をもって行います。
- 只今の出席議員は〇〇です。
- 本件について、原案通り可決することに賛成の議員は白ボタンを反対の議員は緑のボタンを押してください。

	<p>--押し忘れはありませんか。(再度)、押し忘れはありませんか。 --押し忘れ無し、と認めます。 --投票総数〇〇票 --これは、先ほどの出席議員数に符合しています。 **又は、投票数が出席議員数に〇票不足しております。これは棄権したものとみなします。 --そのうち、賛成〇〇票、反対〇〇票、(棄権〇〇票) --以上のとおり、「賛成全員」「賛成多数」「反対全員」「反対多数」であります。 --よって、議題〇号は、「原案のとおり(可決・否決)」されました。</p> <p>* 以上のような採決パターンを基本として、模擬採決に参加した。 福知山市議会の各議員は手元に配置されたマイク一体型の押ボタン式投票機を操作して採決を行った。 * 採決結果はリアルタイムに議場モニターに表示され、傍聴者にも分りやすく見やすい表示となっていた。 * 採決ボタンの押し間違いによる賛成反対の入れ替えについては、議長が採決の終了を告げるまでの間は、入れ替えが可能となっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策提言への反映 ・ 本市での施策実現に向けた比較研究(効果及び課題) 	<p style="text-align: center;">電子採決を含む採決のあり方に関する視察調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞鶴市議会の議場は各議員の議席にマイク一体型投票ボタンにより採決が行えるシステム装置となっており、装置の押ボタンによる採決が実施され、賛成・反対等の採決結果や、マイクによる発言についてもマイクとカメラがシステム連動化しており、採決結果やカメラ操作についても自動化されており、大変合理的な最新設備となっていると感じた。 ・ 一括採決の運用方法については、一括採決を運用するためには、各議員が表決(賛否等)の予定について事前に申告したうえで、一括採決する議案、個別採決する議案を仕分ける作業を行い、議案ごとの採決区分表を作成する必要がある、その調整結果について議会運営委員会での確認も必要である。また、一括採決の運用に際しては、討論の意義をどう捉えるか、傍聴者にとって分りやすい議事運営をどのように行うか、検討すべき課題があると考えている。 ・ 福知山市議会では電子採決による一括採決を行おうとした場合、採決前に各議案の事前申告や賛否調査等は現在まで行ったことが無いことから、電子採決や一括採決を時間短縮のために合理的に導入する為には、本会議当日における議案採決前に、表決予定の申告を行うことが福知山市議会の採決方法になじめるかどうかなど、電子採決を導入するにあたり、一括採決の是非や採決のあり方そのものについて、じっくりと検討する必要があるといった、課題と方向性について確認することが出来た視察となった。 ・ 今回の舞鶴市議会の議場視察は、電子採決を利用した議事の合理的な進行と議事運営の効率化について視察調査を実施していくなかにおいて、福知山市議会として一括採決等の適用に向けたクリアすべき

	<p>課題が認識できたことや、個別採決を電子採決に置き換えるだけでは、採決に時間が掛かり合理的な電子採決導入の効果に繋がりにくいという問題点も認識することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 議場システムの更新を行うことで、傍聴者が採決議案について理解しやすい場内環境が整い、発言の聞きやすさ、議案の見やすさ、採決結果の分りやすい議場システム、加えて議場カメラや音響などのオペレーションシステム等については、参考とすべき点や学ぶべき数多の課題があり、今後の福知山市議会のICT化への取組に大きな成果となる視察となった。
--	--

舞鶴市議会議場写真

令和 4年 7月 5日



令和3年度更新した議場システムの視察



議長 山本治兵衛氏より説明を受ける



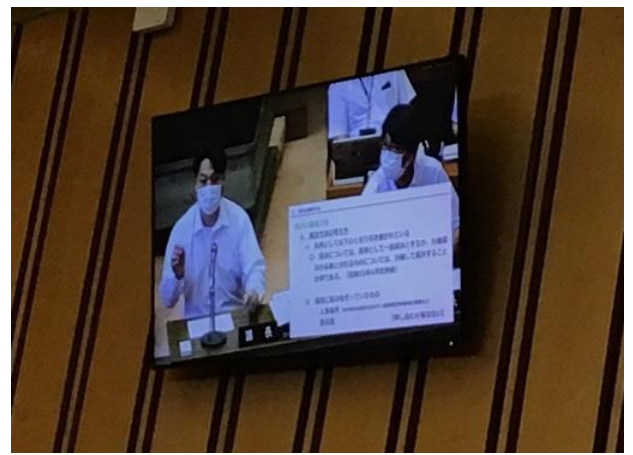
採決システムと連動したマイク



議事進行の状況を表示する大型モニター



議案の採決状況を表示する大型モニター



進行中の採決議案の概要を表示するモニター